

工楽松右衛門旧宅

江戸時代後期（1603-1867）に高砂地区に建てられた商家の典型的な建物。高砂生まれの実業家で発明家の工楽松右衛門（1743-1812）の何世代にも渡る子孫が住んでいました。工楽松右衛門は、主に海運、港湾改良、航海術に関するいくつかの発明を行いました。最も有名な発明は松右衛門帆で、丈夫でしなやかな綿織物の帆布です。松右衛門帆布で作られた帆は、それまで使われていた船の帆よりもはるかに丈夫で耐久性に富み、江戸時代の日本海域における物資の輸送を大幅に改善しました。

築 200 年近くのこの家は、時代によって修築を重ねています。工楽家の先祖子孫が実家として、また家業を営むための店舗兼倉庫として建てたものです。工楽の一族は別の土地に移り住むまで、3 世代か 4 世代がここで暮らしたと考えられています。

この建物は 2018 年、16 カ月以上かけて当時の姿に復元されました。家の中の天井の高い廊下の内側から見上げると、屋根を支える印象的な骨組みが見えます。当時使われていたであろう白い漆喰が塗られ、屋根には天窓があり、建物内に光を取り込み、調理用の火から出る煙を逃がすようになっています。

1 階には、日常生活やビジネス、客人をもてなすための部屋があります。廊下は台所に通じており、

かまどがあります。この家には、当時の家具がいくつかと、家業にまつわる看板や書類が 2 階にわたって展示されています。

2 階への階段は急なので、注意が必要です。2 階には、洋風の応接間と子供用の部屋があります。部屋には、江戸時代の地図やスケッチがたくさんあり、船の模型もいくつかあります。これらは、地元で切り出された石材を北海道に運ぶために工楽が設計・建造した船のレプリカです。一族が使っていたと思われる駕籠もあります。

敷地奥の堀に囲まれた庭には、当時一般的だった井戸と炊事場があります。家の外壁に使われている木材は、古い船から再利用されたものです。

現在、この家と庭では、地元の写真家やアーティストによる町の写真や絵画の展示など、さまざまなイベントが開催されています。庭では、地元の職人や生産者が集まって商品を販売するマーケットがしばしば開催されます。一家がこの土地を市に寄贈した後、兵庫県指定文化財になりました。